

第1学年

令和元年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

柔道整復科

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	自然科学概論	曜日・時間	月曜日・3時限

【授業概要・目標】

1. ヒトの生物学的な特徴を理解する。2. ヒトの体を生化学と分子から理解する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	ヒトとは？① ヒトと他の生物の違い、人類の出現と進化	1	
2	ヒトとは？② ホモ・サピエンスの誕生と拡散	2	
3	細胞の構造と生命誕生① 細胞内小器官、細胞骨格、細胞膜	3	
4	細胞の構造と生命誕生② 生物の誕生、生物の分類、ウイルスとは？	4	
5	生命体を構成する物質① タンパク質、糖質	5	
6	生命体を構成する物質② 脂質、核酸、ビタミンとミネラル	6	
7	生体とエネルギー① 代謝とは？酵素、ATP	7	
8	生体とエネルギー② 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝	8	
9	遺伝子の構造と機能① DNA・遺伝子・ゲノムとは？DNAの複製	9	
10	遺伝子の構造と機能② 遺伝子の転写とその制御、翻訳	10	
11	遺伝子の構造と機能③ DNAの変異による病気、体質	11	
12	細胞の分裂・情報伝達・がん化、細胞分裂の仕組み、がんとは？	12	
13	生体防御機構、自然免疫と獲得免疫	13	
14	総復習	14	
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	試験
授業の進め方	教科書、スライドで教科書の内容を補足する。
注意（学生に望むこと）	丸暗記するのではなく理解すること。わからないことは積極的に質問する。配布したプリントは紛失しないようファイルする
使用テキスト・参考書	やさしい基礎生物学 第2版 羊土社

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	英語	曜日・時間	金曜日・4時限

【授業概要・目標】

授業概要：辞書を使いながら英語を理解する力を養う。文章を読み進めながら必須文法も同時に復習する。文法事項の確認には演習問題も行う。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	授業説明	1	Unit13: 前置詞①
2	Unit1: be 動詞	2	Unit13: 前置詞①
3	Unit2: 命令文	3	Unit15: 不定詞、動名詞
4	Unit3: 現在時制	4	Unit16: 現在完了
5	Unit4: 過去時制	5	Unit17: 不定詞構文
6	Unit5: 進行形	6	Unit18: 句動詞、イディオム
7	Unit6: 疑問文	7	Unit19: 受動態
8	Unit7: 名詞	8	Unit20: 文型
9	Unit8: 代名詞	9	Unit21: 比較
10	Unit9: 未来表現	10	Unit22: 接続詞①
11	Unit10: 助動詞	11	Unit23: 接続詞②
12	Unit11: 形容詞	12	Unit24: 関係詞①
13	Unit12: 副詞	13	Unit24: 関係詞②
14	まとめ	14	まとめ
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験 70%、授業への参加度・積極性 30%
授業の進め方	高校までに学習する文法事項を復習し、比較的短めの文章で文法事項も含め英文全体を確認する。
注意（学生に望むこと）	英和・和英辞書必須(媒体は問わない)。全訳や問題の解答などは配布しないのでしっかり書き取ること。該当範囲の単語・表現を事前に調べてくること。基礎から英語を学ぶ最後の機会と思われるため、積極的に参加すること。
使用テキスト・参考書	“Reading Steps” Robert Hickling・臼倉美里

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	解剖学 I	曜日・時間	月曜日・2時限

【授業概要・目標】

1. 人体における中枢及び末梢神経や感覚器の位置や構造、及び一部の神経障害による疾患について解説する。それらと機能との関わりについても理解できることを目標とする。2. 人体の脈管系（血液、心臓、動脈、静脈、リンパ）の位置や構造について解説し、それらを理解できることを目標とする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	神経学総論 1	1	脊髄神経 1
2	神経学総論 2	2	脊髄神経 1
3	延髄の構造と機能	3	脊髄神経 3
4	橋の構造と機能 1	4	自律神経
5	中脳の構造と機能	5	感覚器 1 (皮膚・視覚器)
6	間脳の構造と機能	6	感覚器 2 (平衡聴覚器)
7	大脳の構造と機能 1	7	血液学総論
8	大脳の構造と機能 2	8	脈管学総論
9	脳室・脳脊髄液・脈管系	9	心臓 1
10	脊髄の構造と機能 1	10	心臓 2
11	脊髄の構造と機能 2	11	動脈系 1
12	脳神経 1	12	動脈系 2
13	脳神経 2	13	静脈系
14	脳神経 3	14	リンパ系
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験により評価する。
授業の進め方	主に板書と教科書の図を用いて行う。適宜スライドを用いることもある。
注意 (学生に望むこと)	予習は必要ないが、授業中に理解できるように集中して聞いてほしい。また解剖学用語は複雑で、多岐にわたる。復習が望ましい。
使用テキスト・参考書	指定された教科書を用いる。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	解剖学Ⅱ	曜日・時間	金曜日・1時限

【授業概要・目標】
 人体の運動器系(骨・筋・関節)の構造について学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション、授業の進め方	1	前期授業内容復習(小テスト、補習)
2	A. 骨格系 総論(骨の役割、分類、構造)	2	前期授業内容復習(小テスト、補習)
3	A. 骨格系 総論(骨の発生と成長、形状の用語)	3	B. 筋系 骨格筋(筋の補助装置、神経)
4	A. 骨格系 各論(脊柱)	4	B. 筋系(頭部の筋)
5	A. 骨格系 各論(脊柱、胸郭)	5	B. 筋系(頸部の筋)
6	A. 骨格系 各論(胸郭、上肢帯)	6	B. 筋系(胸部の筋)、呼吸運動
7	A. 骨格系 各論(上肢骨)	7	B. 筋系(腹部の筋)、呼吸運動
8	A. 骨格系 各論(上肢骨、下肢帯)	8	B. 筋系(背部の筋)、呼吸運動
9	A. 骨格系 各論(下肢帯、下肢骨)	9	B. 筋系(上肢の筋)
10	A. 骨格系 各論(下肢骨)	10	B. 筋系(上肢の筋)
11	A. 骨格系 総論(骨の連結)	11	B. 筋系(下肢の筋)
12	A. 骨格系 各論(骨の連結)	12	B. 筋系(下肢の筋)
13	A. 骨格系 各論(上肢の連結)	13	体表解剖
14	A. 骨格系 各論(下肢の連結)	14	体表解剖
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検教室：評価点検	15	

評価の方法	実技試験、授業態度、出席日数などで総合評価します。
授業の進め方	前回授業の復習をしながら基礎を中心に各回授業に繋げる。
注意 (学生に望むこと)	基礎のため、単語の意味を知ること重点を置く。
使用テキスト・参考書	解剖学の教科書、その他随時資料配布

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	解剖学Ⅲ	曜日・時間	木曜日・2時限

【授業概要・目標】
 正常な人体の形態と構造を理解する。特に、細胞と組織、内臓系について学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	解剖学概説：解剖学の意義・分類・用語	1	内臓系 総論
2	細胞-組織-器官-系についての概説	2	内臓系 総論
3	細胞 1 形態と内部構造 核、DNA 細胞小器官	3	消化器系 2 歯・唾液腺
4	細胞 2 細胞周期と細胞分裂	4	消化器系 3 咽頭・食道・胃
5	細胞 3 上皮組織 1	5	消化器系 4 小腸・大腸・肛門
6	細胞 4 上皮組織 2	6	消化器系 5 肝臓・膵臓・胆嚢
7	細胞 5 支持組織 1	7	呼吸器系 鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺
8	細胞 6 支持組織 2	8	泌尿器系 腎臓・尿管・膀胱・尿道
9	細胞 7 骨組織総論	9	生殖器系 1 男性生殖器
10	細胞 8 筋組織総論	10	生殖器系 2 女性生殖器
11	細胞 9 神経組織総論	11	内分泌系
12	受精と発生 1	12	体表解剖 1 体表区分 骨格系概説
13	受精と発生 2	13	体表解剖 2 筋系・脈管系概説
14	人体の区分	14	生体計測・映像解剖
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験、出席状況、授業態度、小試験、課題提出の総合評価とする。
授業の進め方	教科書中心の講義ではあるが、教科書に記載のない事項まで言及する。
注意（学生に望むこと）	高校程度の生物学の知識は必要である。解剖学は決して暗記科目ではなく、理解することが大事である。予習復習を確実にし、授業に参加すること。課題の提出期限は厳守すること。
使用テキスト・参考書	解剖学 改訂第2版（医歯薬出版）、その他、随時紹介する。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	生理学 I	曜日・時間	火曜日・1時限

【授業概要・目標】

生理学は生命の理を理解する学問である。これをできるだけ平易に講義をするために映像、解説図を多く取り入れて講義をしたいと考えている。目標は国家試験合格に必要な最低限の知識を得ることから過去10年近くの過去問題集を各単元の講義終了時に回答させることにより講義の理解を確認したいと考えている。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	第1章 基礎 (1) 生理学とは、	1	第9章 内分泌 (1) 内分泌腺、化学組成、分泌調節
2	第1章 基礎 (2) 細胞内小器官、核、細胞膜	2	第9章 内分泌 (1) 内分泌腺、化学組成、分泌調節
3	第1章 基礎 (3) ホメオスタシス、内部環境の恒常性、物質の移動、体液	3	第9章 内分泌 (3) 副腎皮質、副腎髄質ホルモン
4	第2章 血液 (1) 血液の役割、血液型、血漿	4	第9章 内分泌 (4) 甲状腺ホルモン、膵臓のホルモン、性腺ホルモン
5	第2章 血液 (2) 赤血球、白血球、血小板、	5	第4章 呼吸 (1) 呼吸器の構造、換気
6	第2章 血液 (3) 血液凝固、血液型、線容系	6	第4章 呼吸 (2) 呼吸調節
7	第3章 循環 (1) 体循環、肺循環	7	第5章 消化器 (1) 消化器系のはたらき、消化管運動、唾液分泌機序
8	第3章 循環 (2) 血管の分類、刺激伝導系	8	第5章 消化器 (2) 消化、吸収、消化管ホルモン
9	第3章 循環 (3) 心電図の波形と働き	9	第6章 栄養 代謝、生体構成成分、電子伝達系、エネルギー代謝
10	第3章 循環 (4) 心周期、血圧の測定	10	第7章 体温 熱の産生と放散、体温調節
11	第3章 循環 (5) 循環調節、リンパ循環	11	第8章 排泄 (1) 細胞外液の調節、レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系
12	第3章 循環 (6) 局所循環	12	第8章 排泄 (2) クリアランス、排尿調節
13	前期試験対策 前期の総まとめ	13	後期試験対策 後期の総まとめ
14	前期試験対策 前期の総まとめ	14	後期試験対策 後期の総まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期国家試験と各単元ごと的小テストを行い評価する
授業の進め方	教科書を中心に学生参加型の講義にしたいと考えている
注意 (学生に望むこと)	講義を集中して聞くこと、予習、復習を行うこと

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

使用テキスト・参考書	生理学（全国柔道整復学学校協会）、ビジュアル生理学（和泉博之、著）
------------	-----------------------------------

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	生理学Ⅱ	曜日・時間	金曜日・3時限

【授業概要・目標】

生理学は、人体の正常な機能に対する理解を深めることを目標とする。特に、「生理学Ⅱ」では体液・神経系・筋・運動・感覚・生殖・骨の働きについて学ぶ。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	導入・神経系の成り立ち	1	運動（総論）
2	ニューロンの構造と働き	2	運動（総論）
3	神経線維の興奮	3	運動（脳幹）
4	神経線維の興奮の伝導	4	運動（小脳・大脳基底核）
5	神経線維の興奮の伝達	5	感覚（総論）
6	末梢神経系-1	6	感覚（体性感覚）
7	末梢神経系-2	7	感覚（内臓痛覚）
8	中枢神経系-1	8	感覚（特殊感覚）
9	中枢神経系-2	9	生殖-1
10	自律神経系-1	10	生殖-2
11	自律神経系-2	11	体液-1
12	神経伝達物質とその受容体	12	体液-2
13	筋肉-1	13	骨代謝-1
14	筋肉-2	14	骨代謝-2
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	期末試験（前期・後期）による。
授業の進め方	教科書・スライド・プリント・レポート課題（講義ごとに毎回出題する）を中心に進める。
注意（学生に望むこと）	生理学の講義内容は多岐にわたる。教科書の予習、配布プリントの復習、レポート課題の提出を欠かさず行うことが望ましい。
使用テキスト・参考書	標準の教科書を使用する。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	衛生学・公衆衛生学	曜日・時間	木曜日・1時限

【授業概要・目標】

衛生学・公衆衛生学の概念を理解し、試験問題も解けるようになる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	公衆衛生とは	1	母子保健
2	公衆衛生の歴史	2	母子保健
3	健康の概念	3	産業保健①
4	疾病予防と健康管理	4	産業保健②
5	感染症の予防①	5	成人・高齢者保健①
6	感染症の予防②	6	成人・高齢者保健②
7	消毒	7	精神保健
8	環境衛生①	8	地域保健と国際保健
9	環境衛生②	9	衛生行政と保健医療の制度①
10	環境衛生③	10	衛生行政と保健医療の制度②
11	生活環境・食品衛生活動①	11	医療の倫理と安全の確保
12	生活環境・食品衛生活動②	12	疫学
13	前期の復習①	13	後期の復習①
14	前期の復習②	14	後期の復習②
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	試験
授業の進め方	教科書に準拠しつつ資料を補足してすすめる
注意（学生に望むこと）	授業中は私語をつつしむ
使用テキスト・参考書	衛生学・公衆衛生学 改定第6版 南江堂

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	柔道 I	曜日・時間	水曜日・2時限

【授業概要・目標】

日本が生んだ世界のスポーツ柔道の授業を通して、我が国の文化を重視し、世界に生きる日本人（柔道整復師）を育成することを目指す。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	ガイダンス 授業計画他	1	締め技 関節技 基本練習
2	基礎知識 柔道の原理（礼法 他）	2	締め技 関節技 基本練習
3	基本動作 受け身（側方 前方）	3	約束練習（投げ技、固め技）
4	投げ技 前廻り受け身	4	約束練習（投げ技、固め技）
5	技の連絡変化 投げ技→投げ技	5	自由練習
6	技の連絡変化 投げ技→固め技	6	自由練習
7	技の連絡変化 固め技→固め技	7	柔道の形（投 柔 固）
8	約束練習	8	試合と審判（団体試合）
9	約束練習	9	試合と審判（個人試合）
10	昇段審査の受け方	10	個人試合
11	得意技の練習 締め技 関節技の練習	11	団体試合
12	締め技 関節技	12	試合の反省 柔道の活法
13	実技試験	13	実技試験
14	実技試験	14	実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	実技試験（基本動作・応用技能）技能70点 平常30点 理論80点 平常20点
授業の進め方	一斉授業を中心にしながら、各個人に目をくばるように進める。
注意（学生に望むこと）	学手を通じて規則や礼法を身に付け心身の健康な社会人を目指す。
使用テキスト・参考書	学習プリント・ルールブック ・その他

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	柔道整復基礎理論 I	曜日・時間	火曜日・2時限

【授業概要・目標】

柔道整復術・学の歴史と基礎理論、基本包帯法を習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション 授業について	1	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の合併症）
2	I. 概説（沿革と倫理綱領）	2	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の合併症）
3	Ⅱ-1. 人体に加わる力	3	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の癒合日数）
4	Ⅱ-2. 損傷時に加わる力	4	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の治癒経過）
5	Ⅱ-3. 痛みの基礎	5	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の予後）
6	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨の形態と機能）	6	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の治癒に影響を与える因子）
7	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨損傷の概説）	7	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、関節の構造と機能）
8	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の分類）	8	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、関節損傷の分類）
9	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の分類）	9	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、関節構成組織損傷）
10	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の分類）	10	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、その他関節構成組織損傷）
11	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の症状）	11	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、脱臼）
12	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の症状）	12	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、脱臼）
13	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の合併症）	13	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、脱臼）
14	前期復習	14	後期復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験、出席(授業態度含む)などの総合評価
授業の進め方	前回授業の復習をしながら、各回授業に繋げる。
注意（学生に望むこと）	基礎のため、単語の意味を知る事に重点を置く。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編、包帯固定学

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	柔道整復基礎理論Ⅱ	曜日・時間	火曜日・4時限

【授業概要・目標】
柔道整復師に必要な知識の習得

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	顎関節脱臼-1
2	人体の構造-1	2	顎関節脱臼-1
3	人体の構造-2	3	頭部・顔面部の軟部組織損傷
4	診察 - 1	4	顎関節症
5	診察 - 2	5	胸・背部の損傷-1
6	筋肉の損傷-1	6	胸・背部の損傷-2
7	筋肉の損傷-2	7	頸部の損傷 - 1
8	腱の損傷	8	頸部の損傷 - 2
9	神経損傷-1	9	腰部の損傷 - 1
10	神経損傷-2	10	腰部の損傷 - 2
11	頭部顔面部の損傷-1	11	腰部の損傷 - 3
12	頭部顔面部の損傷-2	12	復習
13	頭部顔面部の損傷-3	13	復習
14	復習	14	復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価・点検	15	

評価の方法	小テスト、課題、授業態度、筆記試験
授業の進め方	座学を中心に実技も行う
注意（学生に望むこと）	予習復習をしっかりとすること。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	柔道整復基礎理論Ⅲ	曜日・時間	月曜日・1時限

【授業概要・目標】
柔道整復術・学における基礎的な治療方法(指導管理を含む)を学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	Ⅱ-6. 治療法 整復法(徒手整復施行時の配慮)	1	前期授業内容復習(小テスト、補習)
2	Ⅱ-6. 骨折の整復法	2	前期授業内容復習(小テスト、補習)
3	Ⅱ-6. 骨折の整復法	3	Ⅱ-6. 後療法(手技療法、運動療法、物理療法)
4	Ⅱ-6. 脱臼の整復法	4	Ⅱ-6. 後療法(手技療法、運動療法、物理療法)
5	Ⅱ-6. 徒手整復後の確認と配慮	5	Ⅱ-6. 後療法(手技療法、運動療法、物理療法)
6	Ⅱ-6. 骨折、脱臼の整復法	6	Ⅱ-6. 指導管理(患者とその環境の把握)
7	Ⅱ-6. 軟部組織損傷の初期処置	7	Ⅱ-6. 指導管理(患者の環境に対する指導管理)
8	Ⅱ-6. 固定法 固定施行時の配慮、固定後の配慮	8	Ⅱ-6. 指導管理(自己管理に対する指導)
9	Ⅱ-6. 後療法(用量、患者の準備、手技療法)	9	Ⅱ-7. 外傷予防 第一段階(運動機能向上と教育活動)
10	Ⅱ-6. 後療法(手技療法)	10	Ⅱ-7. 外傷予防 第一段階(特異的予防)
11	Ⅱ-6. 後療法(手技療法)	11	Ⅱ-7. 外傷予防 第二段階(早期発見、早期治療)
12	Ⅱ-6. 後療法(運動療法)	12	Ⅱ-7. 外傷予防 第三段階
13	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)	13	Ⅱ-7. 後期授業内容復習
14	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)	14	Ⅱ-7. 後期授業内容復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検教室：評価点検	15	

評価の方法	筆記試験、授業態度などの総合評価
授業の進め方	前回授業の復習をしながら、各回授業に繋げる。
注意 (学生に望むこと)	基礎のため、単語の意味を知ること重点を置く。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編、包帯固定学

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	柔道整復基礎実技 I	曜日・時間	金曜日・2時限

【授業概要・目標】
柔道整復術、包帯固定学の基礎を身につける。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション 授業について	1	前期授業内容復習（実技復習試験）
2	柔整理論用語練習(読み書き)、学習方法指導	2	前期授業内容復習（実技復習試験）
3	柔整理論用語練習(読み書き)、学習方法指導	3	「手技療法」の柔整理論での分類と基本型
4	柔整理論用語練習(読み書き)、人体の構造	4	手技療法基本型を術者役と患者役で実践①
5	柔整理論用語練習(読み書き)、人体の構造	5	手技療法基本型を術者役と患者役で実践②
6	柔道整復(整復)	6	手技療法基本型を術者役と患者役で実践③
7	柔道整復(整復)	7	柔道整復(整復)
8	包帯固定学	8	柔道整復(整復)
9	包帯固定学	9	包帯固定学(テーピング含む)
10	包帯固定学	10	包帯固定学(テーピング含む)
11	包帯固定学	11	包帯固定学(テーピング含む)
12	前期実技試験内容説明	12	後期実技試験内容説明
13	前期実技試験	13	後期実技試験
14	前期実技試験(予備日)	14	後期実技試験(予備日)
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検教室：評価点検	15	

評価の方法	実技試験、授業態度、出席日数などで総合評価します。
授業の進め方	前回授業の復習をしながら基礎を中心に各回授業に繋げる。
注意（学生に望むこと）	柔整基礎(総論)に則り、逸脱しないよう注意する。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編。包帯固定学。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	柔道整復基礎実技Ⅱ	曜日・時間	火曜日・3時限

【授業概要・目標】

解剖学の知識を土台に患者に後療法を実践できるための基礎を学ぶ。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	固定法Ⅰ
2	体表解剖Ⅰ	2	固定法Ⅰ
3	体表解剖Ⅱ	3	手技療法Ⅲ
4	体表解剖Ⅲ	4	手技療法Ⅳ
5	触察法Ⅰ	5	手技療法Ⅴ
6	触察法Ⅱ	6	運動療法Ⅰ
7	触察法Ⅲ	7	運動療法Ⅱ
8	手技療法Ⅰ	8	運動療法Ⅲ
9	手技療法Ⅱ	9	運動療法Ⅳ
10	接骨院の施術について	10	医療面接Ⅰ
11	患者の対応方法	11	医療面接Ⅱ
12	コミュニケーションゲーム	12	ロールプレイⅠ
13	問診方法	13	ロールプレイⅡ
14	実技試験	14	実技試験(臨床実習前施術試験)
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	小テスト、実技試験の結果による。
授業の進め方	繰り返しの練習により柔道整復術を身につける
注意(学生に望むこと)	臨床の現場・実際の患者を想定し実技を行う事
使用テキスト・参考書	テキストはその都度配布いたします。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科 1年 -
科目名	手技療法 I	曜日・時間	水曜日・3時限

【授業概要・目標】

卒後に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場に必要な基本的知識・技術を学習すること。1. 柔道整復師に必要な基礎の包帯法を修得する。2. 臨床現場で軟部組織損傷の治療に際し行う包帯固定時の技術力をつける。3. 金属副子やシーネ・絆創膏を使用する応用固定包帯の基礎技術力をつける。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	授業の説明 デスカッション	1	部位別包帯 P51～P55 肘部・手部・手指部
2	包帯固定学固定材料の種類 P1～7	2	部位別包帯 P51～P55 肘部・手部・手指部
3	巻軸包帯の巻き方と注意事項 P8～13	3	部位別包帯 P59～P66 膝関節部・足趾部
4	巻軸包帯の巻き戻し P14	4	部位別包帯 P67～P70 胸部・背部
5	基本包帯法 p 16～21	5	その他の包帯法 P71～P82 三角巾・晒固定
6	基本包帯法実技	6	固定材料の制作と固定例 P83 厚紙副子
7	基本包帯法実技	7	固定材料の制作と固定例 P88 スタレ副子
8	基本包帯法実技	8	固定材料の制作と固定例 P91 金属副子
9	冠名包帯法 P22～P31 デゾー包帯	9	固定材料の制作と固定例 P95 ギプスとキャスト
10	冠名包帯法 P22～P31 デゾー包帯実技	10	固定材料の制作と固定例・熱可塑性キャスト材
11	冠名包帯法 P32～P35 ヴェルポー包帯	11	絆創膏固定・テーピング
12	冠名包帯法 P32～P35 ヴェルポー包帯実技	12	絆創膏固定・テーピング
13	冠名包帯法 P36～P41 ジュール包帯	13	実技試験
14	冠名包帯法 P36～P41 ジュール包帯実技	14	小テスト・実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検部位別包帯 P42～P82 頭部・肩部・肘部	15	

評価の方法	実技試験を行います。実技試験の中には、口頭試問、授業態度・服装等が含まれます。後期試験は、担当した症例を元に疾患を把握・計画し、指導内容や固定の方法・後療法を発表して頂きます。前期試験・後期試験 実技とも 65 点以上を合格とします。
授業の進め方	実技を中心に授業を行います。包帯法をマスターしたら、教務室で各先生の前で包帯巻を行って頂きます。
注意（学生に望むこと）	包帯法をメインとした授業のため、包帯を巻いた練習回数が重要となります。包帯を自宅に持ち帰り、家族や友人の体を借りて反復練習す

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

	ることが大切です。学校でも休み時間を利用して、学生同士で積極的に練習しましょう。
使用テキスト・参考書	教科書：『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『柔道整復学 実技編』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 参考書：『テーピングの実技と理論』（文光堂）

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復科1年
科目名	臨床実習	曜日・時間	月水木・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者への接遇ができる。②基本的な施術準備ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし